

～ごあいさつ～

—創業 100 年を迎えて



株式会社右文書院
代表取締役 三武義彦

私ども右文書院は、大正 7 年(1918) 3 月に東京本郷区(現文京区)千駄木で合資会社として、その産声を上げてより今年で 100 周年を迎えることとなりました。

この間、大正 12 年(1923) 9 月の関東大震災や昭和 20 年(1945) 3 月の東京大空襲に遭遇し、それまでに出した書物のほとんどを喪失してしまいました。

戦後は本郷西片に居を移し、修学旅行ノートや夏休み宿題帳などをいち早く手掛けたりして、昭和 37 年(1962)に株式会社に組織を改めると同時に神田に移転しました。

その前後の出版物としては、湯沢幸吉郎『文語文法詳説』(昭和 34 年刊)、田辺爵『徒然草諸注集成』(昭和 37 年刊)、林和比古『枕草子の研究』(昭和 39 年刊)、松村博司編『枕草子総索引』(昭和 42 年刊)、竹岡正夫『古今和歌集全評釈(上・下)』(昭和 61 年刊)『伊勢物語全評釈』(昭和 63 年刊)などの名著を発刊し、平成に入ってから上坂信男『竹取物語全評釈(本文注釈篇・古注釈篇)』(平成 2 年刊)、青木紀元『祝詞全評釈』(平成 12 年刊)など学術的に貴重な本を手掛けてまいりました。

しかし、出版業界全体を取り巻く環境は、歴史ある出版社の廃業のみならず、販売書店数もこの 20 年で半数近くにまで減少してきております。ましてや上記のような専門書などを置いてくれる書店は限られてきており、これら専門書はいよいよもって刊行しにくくなってきてしまい、著者・読者の皆様に対しても少なからず心を痛めてきております。出版に携わる者のひとりとして、このような状況を少しでも打開する方法はないだろうかと考えてきているところです。

そこで、私どもは創業 100 周年を迎えるにあたって、著者と出版社の共存・共栄の途を模索しながら「協力出版」というものを打ち出ささせていただくことにいたしました。

出版社は著者の学術的に優れた作品を世に広めるべく、そのマーケティング市場を掘り起こすことを努力するとともに、著者側においても出版社の負担リスクを少しでも軽減させるべく、ご支援をいただくという形をとることによって、より良き書物を協力して市場に提供し、勉学の徒の手助けを少しでもいたしてゆきたいと願っております。

このような思いをベースに【創業 100 周年記念出版】として取り組んでまいりたいと考えておりますので、従来にも増してご支援・ご協力のほど、どうぞよろしく願いもうしあげます。

平成 30 年 4 月